

# GIとの親密性

# パンパンとは誰なのか キャッチという占領期の性暴力とGIとの親密性

本報告は、占領期のGHQ主導の性病対策が、占領地のおんなたちへの性暴力であり、現在まで不問にされてきたことに焦点を当てる。性病検診のために強制的に検挙されたおんなたちはパンパンという蔑称で、更生や救済の対象とみなされてきた。現代のドラマでも、GI(米兵)たちとたわむれる姿で彼女たちは描かれている。本報告を導きの糸として、さまざまなおんなたちの連帯の可能性を探り、いまなお沈黙されているかたがたの尊厳回復の支援につなげたい。占領期の特殊な時期の特殊な話ではない、ということに参加者のみなさんとともに考えたい。

報告者 茶園敏美  
(京都大学アジア研究教育ユニット研究員)

コメンテーター  
西川祐子(元京都文教大  
学教授。一九三七年生)

コメンテーター  
三橋順子(性社会・文化  
史研究者。明治大学、都  
留文科大非常勤講師)

コメンテーター  
深田卓(インパクト出  
版会代表・編集者)

専門はセクシュアリティ、他者表象、占領期の性病対策、パンパン、性暴力。現在の研究は占領期沖縄の性病対策。  
著書に『パンパンとは誰なのか』インパクト出版会二〇一四年。主要論文に、「占領期のキャッチとおんなたちの「声」―占領期日本における不問にされた性暴力」『女性学年報』第三四号、二〇一三年、「『闇の女』と名づけられること―占領初期神戸市における強制的性病検診」『同志社アメリカ研究』第四九号、二〇一三年他。

専門は文学、女性史。現在の研究テーマは占領期京都の生活誌。「古都の占領―占領期研究序論」「続・古都の占領―アリーナ」第一〇号、第一五号別冊、中部大学、二〇一〇、二〇一三年。著書に『日記をつづるとのこと―国民教育装置とその逸脱』吉川弘文館、二〇〇九年、「私語り 樋口一葉」岩波現代文庫二〇一一年、「借家と持ち家の文学史―「私」のうつわの物語」三省堂、一九九八年他。

専門はジェンダー／セクシュアリティの歴史、とりわけ性別越境(トランスジェンダー)の社会・文化史、及び、買売春(主に「赤線」)の歴史。著書に『女装と日本人』講談社現代新書、二〇〇八年、主な論文に「性と愛のはざま―近代的ジェンダー・セクシュアリティ観を疑う」『講座日本の思想』第五巻、身と心』岩波書店、二〇一三年他。

一九七九年に変革のための理論と情報誌として『インパクト』(のち『インパクション』)を創刊、隔月で三五年続けこの一月に休刊した。単行本も政治、社会、フェミニズム、文学等幅広いジャンルからラディカルな図書を二五〇点刊行。死刑廃止国際条約の批准を求めるフォーラム(に所属し、死刑廃止運動に取り組み、死刑関連書を多く出版してきた『年報』死刑廃止)は一九九六年に創刊、今年の一八冊目は袴田事件特集である。

12月7日(日)

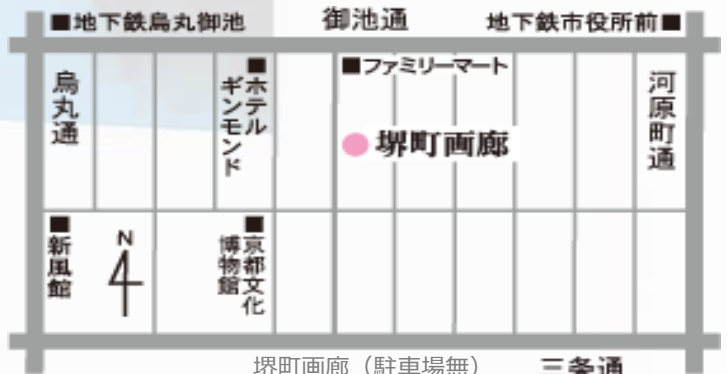
14時開演 (13時半開場)

堺町画廊(入場無料)

司会: 田中雅一

(京都大学人文科学研究所教授)

画廊では知人ぞ知る  
杉山佳苗珈琲焙煎 (かなえ珈琲)  
&  
オーガニックのカイラスレストラン  
まりこちゃんのお菓子のお店が  
この日だけ臨時オープンいたします。  
みなさまぜひお越しください!!



堺町画廊 (駐車場無) 三条通

〒604-8106 京都市中京区堺町通御池下ル

烏丸線 烏丸御池駅から御池通を東へ徒歩5分

本研究会お問い合わせ先: kobin39【@】yahoo.co.jp

【@】を@に変えてください。

当日午後1時からのお問い合わせ先075-213-3636堺町画廊